琉球大学学術リポジトリ

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して：地域志向科目における取組み事例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー, 商品開発, 地域振興, 地域志向科目 キーワード (En): 作成者: 小島, 肇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48505

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して
－地域志向科目における取組み事例－

小島　肇
琉球大学地域連携推進機構

要　旨

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの受賞科目である「琉大特色・地域創生特別講義Ⅲ（地域創生のための地域商品開発入門）」の事例を通じて、担当している地域志向科目における取組みを紹介する。

キーワード

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー、商品開発、地域振興、地域志向科目

１ はじめに

今般、担当している「地域創生のための地域商品開発入門」でプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞させて頂き、大変光栄に感じるとに、一緒に授業を担当して頂いている非常勤講師の池村博隆先生をはじめ、商品開発の事例研究として本授業で事例紹介にご協力頂いた事業者の方々、また、熱心に受講してくれた学生のみなさんに対しで大変感謝しております。本科目は2018年度に新規開講したばかりで、試行錯誤しながらの実施でしたので、どこを評価頂いたのか不安なところもありますが、後述する地域志向科目の一つとして、地域に関心をもった本学の学生の目にとまり、期待感にうまくマッチしたのではないかと感じております。本稿では､開講に至った経緯をはじめ､授業の概要を中心に取組みを紹介させて頂こうとと思います。

２ 開講に至る経緯

本科目は共通教育等科目の「琉大特色・地域創生科目」で、その「琉大特色・地域創生科目」とは、「沖縄の地域の歴史・文化・自然環境等に焦点を当て、琉大の理念（「真理の探求」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追及」）を具現化する科目であり、地域が抱える諸課題に関する理解を深め、地域の維持・発展に対して主体的かつ能動的に貢献できる人材を養成するための科目」とされる科目群である。琉球大学では文部科学省の補助事業である大学COC事業や、COC+事業を通じて、琉大コミュニケーションキャンパス（RCC）事業本部が中心となって地域志向教育の拡充に取組み、地域の自治体や企業とも連携した地域志向科目を新たに開講してきている。琉大特色・地域創生特別講義Ⅲとして開講している本科目もその一つであり、文部科学省の補助事業終了後も地域連携推進機構が引き続き担当している科目である。特に平成27年度から実施したCOC+事業では、地方大学による地方創生が重要なテーマとなり、沖縄県内の自治体と地方創生に関する協定を結び、学生が地域の課題を学び、解決策を考える実習等を実施した。具体的には正課や正課外の活動で、学生が地域の課題やニーズを調査し、

解決策を検討し提案するという実習を、離島地区を含む県内の複数の自治体で試行した。このような実習では、地域の資源を活用した商品開発で振興を図りたいとの地域からの要望が多く寄せられた。実際にCOC+事業で実施した石垣島等での実習においても、短い実習期間中に商品開発の方法から学ぶとなると実習時間が全く足りず、学生にとっても地域にとっても満足のいく成果とならないことがあった。そこで、実習に参加する学生が事前に商品開発について一通り学んだうえで、現地での実習に臨めるように、一つの科目として開設することに至った。

３ 本科目での学び

本科目は、沖縄タイムスで「ヒットのたまご」というコラムも担当している沖縄物産コーディネーターの池村博隆先生に非常勤講師として分担頂いている。池村先生には、先生が実際に支援した企業や商品を中心に、沖縄における商品開発の事例を学生に教授して頂いている。また、ただ単に商品開発の流れやノウハウを学ぶだけでなく、地域資源を活用した商品開発の意義について学生に考えさせるなど、地方創生において期待されているこのような取組みの背景についても学ぶ内容としている。この部分を主に私が担当している。

15回の授業の半分は事例研究として、商品開発の流れを各分野の事例を通じて学ぶ授業としている。それらの回では、実際に販売されている商品について、地域資源の見極めから、マーケットニーズへの対応、売れる商品とするための強みの発揮などのポイントを学びとるとともに、地域の事業者の生の声を教室の学生に届けて、その地域資源や商品への想いについても学べる機会としている。これまで３年間に授業で取り上げた地域資源や商品としては、カーブチー、ハブ革、アセローラ、モズク、紅型、赤鶏、ハチミツ、島ぞうり等がある。また、わしたショップの取組みや農福連携による商品づくり、商工会議所による観光商品の開発など、沖縄にこんな魅力的な資源や商品、取組みがあるということを学ぶとともに、商品開発を通じた地域振興について考えさせている。受講学生のアンケート等からは、知っている事例について学べるだけでなく､その背景まで考えることで､地域に対する新たな視点が得られたとの感想や、この授業をきっかけに他の地域志向の科目や専門の科目で、地域について深く学んでみたいとの感想もあり、提供側の想いがしっかり学生に届いていることをうれしく感じている。

４ 今後の展望

開講に至る経緯のところでも述べたように、本科目は「琉大特色・地域創生科目」の科目として、地域に対する理解を深めるともに、地域課題の解決等を通じて地域に貢献できる人材の育成を目指して開講している科目である。この科目単独でも、商品開発の流れや地域振興における役割などを学べる内容となっているが、受講した学生には、他の授業や実習等で実践してほしいと考ている。私が担当してる講義や実習を受講する学生の中に、この科目や他の科目の受講をきっかけに地域について深く学んでみたいと想って受講したとの学生も見られるようになっており、これをさらに広げていきたい。私が提供している地域志向科目の受講学生についてなので、バイアスがあると思われるが、琉球大学の学生は沖縄が好きだったり、沖縄に関心のある学生が多いように感じている。今回の受賞はその期待だと受け止め、学生のそうした期待に応えるべく、地域志向科目のさらなる充実や自身の研鑽に努めて参りたい。

以上